

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 75

「幻の町制と水の魔力」

高知県 芸西村長
いのうえ かずお
井上 一夫



芸西村は、人口4,200人余り、面積39.63km²、北方は標高300mから600mの四国山脈の支峰が控え、東西は緩やかな台地で南に白砂青松と太平洋を望み、中心地を流れる和食川は200ha余りの農地を形成し、施設園芸発祥の地としてナス・ピーマンを中心とした園芸農業が盛んな県下でも屈指の産地です。

ただ、平野部の湿田を乾田化し、圃場整備した農地ではビニールハウス栽培で地下水を多用するため、農業用水や飲用水の不足を招くなど、治水以外に利水と排水相反する大変複雑な問題を抱えています。

現在、四国地方整備局と県の協力を得て、平成24年度完成を目指すダム高51m・総貯水量73万トンの多目的ダムの建設に着手、村も地元対策等を行い推進していますが、問題は、河川流域が狭く短いこと。

また、高低差の少ない平野部は、台風や大波を伴った強雨時に河口導流堤の閉塞で圃場の冠水が度々起きており、内水排水ポンプ場を2箇所設置するも万全でなく、産地を守り育てるには水の制御が重要なため、河口導流堤の抜本改修が強く望



ビニールハウス群

まれています。

水にまつわる話として、芸西村は、昭和29年3月に県下初の合併として4村合わせて人口8,350人、面積30.57km²の当時としては、理想的なモデル農村「芸西町」が誕生するはずでした。

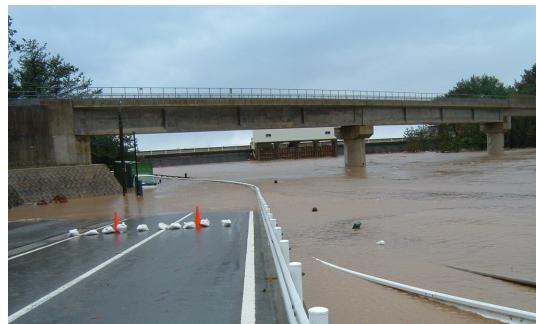
合併協議終結の数日後に水量の多い村の有力者から、合併同意の条件として「豊富な水を利用する見返りに初代首長をほしい。」と切り出した話が村史にありますが、これが叶わなかつたためか真意不明のまま、その村は一夜で情勢を一変して無断離脱したため、4ヶ月後3村で合併したが8,000人に足りず「芸西町」は幻となり、以後、水不足に悩まされることとなります。

離脱の背景には、県東部に拠点市を立ち上げたい県の意向が強く優先したこと。敢えて協議済みの枠組みから離反させたことが他の3村からは裏切ったとして遺恨となり、50数年経た平成の合併にも影響を与えています。

昭和の合併時の重要な局面で水が関わっていたなど知る由もなく、改めて水の魔力を感じるとともに、幻の「芸西町」に想いを馳せております。



ビニールハウス冠水状況



水門付近冠水状況